貴重な文化遺産を後世に

妙蓮寺山門など4件を市文化財に指定

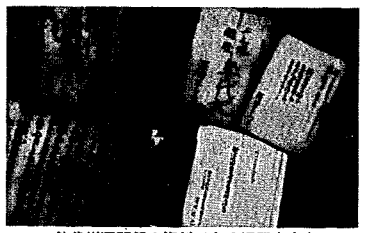
市教育委員会では、このほど、文化財調査審議会（坂爪精一郎委員長）の答申にもとづいて、「妙蓮寺山門」（東島）ほか三件を市文化財に指定しました。いままでに「煮坪」と「幸清水」が市文化財に指定されていますから、これで市文化財は六件になったわけです。

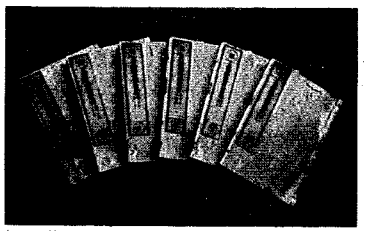
今回指定されたのは次の四件です。

♡妙蓮寺山門……東島
♡真柄家石油関係資料七十点……柄目木
♡沢田家能代川堰関係資料二十六点……草水町三
♡蓮徳寺一切経千百六十冊……西島

なお、指定理由は次のとおりです。

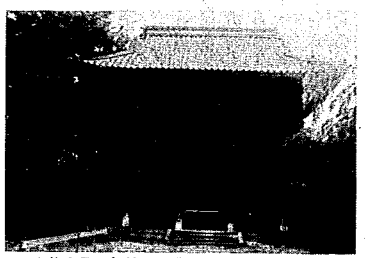
新津の石油を知るうえで貴重な真柄家文書


能代川堰関係の資料である沢田家文書


道光鉄眼によって開版された蓮徳寺一切経

妙蓮寺山門

妙蓮寺山門は文政九年（一八二六年）三月、同寺二十六世日感のとき、菅沢村（現五泉市）の檀頭伊藤与左衛門が願主となり、同村の工匠飯利辰左衛門（後伊藤に改姓）によって建造されたものである。建築年代は比較的新しいが、その技法・構造・容姿においては新津市周辺の巨刹のものに比肩でき、同寺の隆盛を偲ぶに足る近世末期、この地域における代表的寺院建築である。


約150年前に建造された妙蓮寺の山門

真柄家石油関係資料

慶長十八年（一六一三年）、真柄家の祖仁兵衛貞賢による新津油田の発見と、その後における真柄家と領主層との関連、油井の状況と採油の技法、産油量増減の推移など、江戸初期から明治中期に至る間、新津付近における近代石油産業発生までの経緯全般を知るうえで、さきに市文化財に指定した煮坪とともに、学術的にもきわめて価値の高いものである。

沢田家能代川堰関係資料

天文二年（一五三三年）の創設になるといわれる能代川堰の起源とその変遷、堰守沢田家と領主層との関連、村落の開発と耕地の拡大、堰の造営技法と関渉住民の負担、堰をめぐる上流と下流の住民の動静などの戦国争乱期から幕末期にわたる新津付近の水利、治水を知るうえで貴重なものである。

蓮徳寺一切経

この一切経は、寛文九年（一六六九年）から天和元年（一六八一年）に至る十三年間に、道光鉄眼により開版されたものである。蓮徳寺慶露蔵（経蔵）に収蔵の一切経は、全巻六千七百七十一巻のうち三千五百六十三巻（千百六十冊）である。これらは、同寺十二世五明院鳳冠以来歴世の収集にかかるもので、仏教聖典として重要なものである。

新津高校マンガクラブ
林　由美子（2年）

お買物、ご用命は市内で

総合結婚式場
≪春祥殿≫
御結婚披露宴会・歓送迎会・クラス会・各種御会合に御利用下さい。
お茶会には松花堂弁当をどうぞ。
新津市本町一丁目　☎(2)(代)1600
春雨

最新鋭機パーマックドライ
速く・安く・確かな仕上げ
朝9時30分までの持込みは当日仕上がり
マルヤドライクリーニング
本町1（猫山医院前）　TEL 2－0739
フードセンターショッパーズ山谷持込み店も御利用下さい
翌日納品　料金割引き

明治夜話 (25)

虚報に揺らぐ米沢藩の新津本陣

阿達　義雄

五月二一日、米沢藩の本陣を新津に置くことに決定したが、甘粕備後の『北越日記』を見ると、米沢藩の内部では、今後、加茂へ兵を繰り出すべきか、それとも本陣を笹岡辺迄後退させるべきかということについて意見が二つに分かれてきた。

すなわち、この日、中老若林作兵衛と勘定頭々取小林五兵衛が水原から新津本陣へ来て、兵を加茂へ進めることに不同意を唱え、本陣を五十公野又は笹岡辺まで退けるべきことを論議し始めたが、参謀の甘粕備後は独り飽くまでも反対であって、前に水原において会津や桑名の家老と約束したことでもあり、長岡が陥落したからと云って、今更強敵に恐れて退いては天下の物笑いになるだろうと抗弁して、屈しなかった。

だが、この議論の結着を待たずに、色部長門と中老中林作兵衛は、一先ず、総督付の三隊を率いて、阿賀川を越えて笹岡迄退いてしまった。

それで、甘粕は仮に総督の心得で、先発隊および本隊の一七小隊を指揮して新津に止まり、機会を見て加茂へ進軍することにし、先ず中条豊前を勧めて加茂へ行かせ、その隊下の兵を督励させ、なお、古海勘左衛を軍議参与として中条と共に進ませ、六老の倉崎も之に同行させた。

昼後、甘粕備後は従者を伴って、加茂の地勢を見分する為めに早駕籠で行ってみると、先日、妙見の山で戦った会津・桑名・村松・長岡・上の山・村上等の兵で、長岡落城に逢って後路を断たれた者七百余人が、今日漸く山路を経て逃げ帰ったというので、加茂の街中に兵が充満して、その混雑が甚だしかった。

また、長岡城から本道を避けて来た会津・桑名・長岡の諸将もみな加茂駅に宿陣して、後から後からとくる敗兵を掻き集めていた。

この夜、色部総督の命令で、新津から加茂へ使者が馳せ来り、「今日西北に当たって砲声が夥しく聞こえ、敵が早くも新潟から襲来するという噂があり、このため新津駅中は大変な騒ぎである。で、中老若林や小林、長等は分田の渡しを断たれることを恐れ、万一の時の渡舟の手配をするために出張しているが、新津から阿賀川を渡る退路を遮断されては一大事であるから早々兵をまとめて加茂を引揚げよ」というのであった。

このことを聞くと、諸隊に後顧の心を生じ、いろいろの論議で紛々たるものがあったが、甘粕参謀と藩老倉崎は、風説、流言によって妄りに動くべきでないとの論を持して、加茂からは引揚げないことに決した。

これによって、廿二日に米沢軍は加茂周辺の地形を考究して、会津・桑名・村松の兵と談合分担して、加茂新田、黒水、鹿峠、長沢等の要所に、それぞれ兵を遣って敵の侵入に備えた。

その後の情報によって昨夜の新津からの報告の砲声は、全く敵のそれではなく、新発田で調練していた音だとのことであったが、中老中林や小林五兵衛等は遂に行方不明となり、その侭米沢へ逃げ帰ったのではないかという噂があった。

なお、二一日に新津まで聞こえた砲声や、《官軍、新潟から新津へ来襲》の風聞については、『戊辰騒擾記』には次のように記されている。

「昨廿一日夕刻、官軍村松へ押し寄せ、戦争相始まり候由。米沢人数より申し出し、大狼狽、急繰出しして新津町中大騒ぎ仕り候処、晩刻、五泉より帰り候者等これあり、全く官軍に御座無く、村松にて大砲の稽古打ち、五泉にては火入れ調練仕り候儀にて有之候趣相分り、米藩繰り出し候人数も追々引き取りに罷り成り申し候」とあり、《兵を繰り出す》と言っても、何処へ向かって繰り出したものかも判然しない有様であった。

この二二日に加茂で列藩の重臣が集まって軍議をしたが、「敵を拒ぐの策を議すれども、各相顧みて主として議を建つる者なし」とある。

ただ、米沢軍参謀甘粕備後の眼に映じた河井継之助の風姿だけは列藩の重臣とは異なって、次のように記されている。

「只、河井継之助、勇断進撃して見附を取り、長岡を復するの説を唱へ、傍に人なきが如し、又、村松の田中（勘解由）等を責むるに、長岡落城の節、尽力せず、其仕儀甚だ怪しきを以てす、言甚だ切也」

（新潟大学名誉教授）

本はみんなのおともだち

五月一日から十四日までは「こどもの読書週間」です。親ならだれしも「本を読む子になってほしい」と願うものですが、相手は子どもです。「うちの子は本を読まない」とこぼすより、一日一回、子どもと本を読む時間をつくってみてはいかがでしょうか。

お買物、ご用命は市内で

初心者の方も楽しみながら
―創るよろこびを―
新入生募集…昼夜間部・入学随時
お問合せ　新津ドレスメーカー
善道町2丁目　TEL（2）3066

住宅　どんな御相談でもお気軽に
羽田建築　TEL(2)6163
新津市金沢町2丁目　設計、施工、監理